豊かにたくましく生きていく力を育てるために

伊万里市教育研究大会

12月26日、市民センターで『第54回伊万里市教育研究大会』が開催されました。これは、子どもたちが自分で考え判断する力や、真理を求め正義感や倫理観を重んじる心などの『生きる力』を育むことを目的に、市教育委員会と市教育研究会が毎年開催しているものです。

会員発表では、黒川小学校教頭の岩﨑達義さんが、学校の図書館や新聞を活用した教育実践活動の成果と課題などを報告しました。

続いて、NPOスチューデント・サポート・フェイスの谷口仁史さんを講師に招いて、『どんな境遇の子どもも見捨てない！』と題した記念講演が行われました。谷口さんは、「社会的に孤立した子どもや若者を支援するためには、本人を支援するだけでは限界がある。本人を取り巻く環境に対するアプローチが必要」と訴えました。

参加者は、大会を通じて、子どもたちの実態を踏まえた指導方法の充実と、質の高い教育のために必要な教育活動について理解を深めていました。

↑「新聞を活用した教育は学力向上に役立つ」と話す岩﨑さん

いじめ撲滅と教育の振興のために

2つの団体が市に寄付金を贈呈

■地域活性化・いじめ撲滅プロレス実行委員会

12月11日に国見台体育館で開催されたチャリティープロレス大会を主催した、『地域活性化・いじめ撲滅プロレス実行委員会』が12月15日、大会の入場料収入の一部である3万円を市に寄付しました。大会は、いじめ撲滅をテーマとして開催され、約500人が観戦。寄付金は、いじめ対策に活用される予定です。

↑次はもっと多くの子どもたちに来てもらいたいと意欲を見せる実行委員会の皆さん

■特定非営利活動法人JBC・CSR基金

1月6日、経済的に就学が困難な高校生などに奨学金を支給する事業を行う『特定非営利活動法人JBC・CSR基金』が、市のふるさと応援基金に1211万円を寄付しました。寄付金は教育の振興に活用される予定で、返礼品の伊万里牛は、熊本地震で被災した奨学金を受給する学生に送られます。

↑「被災した高校生を伊万里牛で元気づけたい」と話す事務局の菅波（すげなみ）完（たもつ）さん（左）

郷土の文化財

伊万里地域の磁器の始まり（前編）

●問合先　生涯学習課文化財係（☎㉓3186）

昨年は磁器発祥400年の節目の年でした。市内で最初に磁器を焼いた窯跡があるのは大川内山や市ノ瀬山と思われがちですが、実は松浦町にあります。

伊万里市は旧唐津藩領（波多津町・黒川町・南波多町・大川町）と旧佐賀藩領（それ以外の地区・町）に分けられます。発掘調査などによって、市内の旧佐賀藩領内で最初に磁器製品を焼いたのは、松浦町にある卒丁古場（そつちょこば）窯跡と鞍壺（くらがつぼ）窯跡であることが分かっています。1610年代～1630年代の頃です。

この二つの窯跡ではもともと、陶器製品を焼成しており、磁器製品も一緒に焼き始めましたが、程なく佐賀藩により窯の操業が廃止されました。佐賀藩では窯場が増え、燃料となる山の木を切り荒らしたことから、山林を保護しようと伊万里と有田にあった窯場を整理統合したためです。

その後、1650年代になって大川内山や市ノ瀬山で磁器生産が始まりました。あまり知られてない、市内の磁器発祥の話です。

↑卒丁古場窯跡と鞍壺窯跡から出土した磁器陶片